

## [066\_04] 経済学研究表紙奥付等

<https://hdl.handle.net/2324/4362393>

---

出版情報：経済学研究. 66 (4), 1999-12-31. 九州大学経済学会  
バージョン：  
権利関係：

## 序

徳永正二郎教授は、2000年2月5日にめでたく還暦を迎えられた。九州大学経済学会は心から祝意を表し、ここに記念論文を刊行する。

教授は、1965年3月山口大学経済学部を卒業後、九州大学大学院経済学研究科に入学、木下悦二先生に師事され、国際経済分野における研究者の道を選択された。同大学院博士課程修了後、西南学院大学商学部講師、助教授を経て、1976年4月に本学助教授に就任、1979年10月に経済学博士を取得され、1984年9月に教授に昇任された。

教授は、単著2冊、英文を含めた共著・編著8冊、100編以上の論文や書評等を発表されている。これら多数の学問的業績は、国際経済学分野に大きな影響をもたらしている。教授の独創性は、為替取引および国際決済制度の分析から現代資本主義の世界体制を解明されているところにある。代表的著作では、膨大な資料を蒐集し、近代的国際決済制度が信用制度の特殊な形態として発生し、「スターリング為替」本位性として確立した基本構造を提示するとともに、この分析をもとに、ドル本位制形成の理論的展開を試みられている。これらの研究に見られるように、教授の学問の基本的姿勢は、詳細なファクト・ファインディングに基づいた上で国民経済間の国際決済メカニズムの構造分析とその理論展開を行うことにあり、また教授の研究方法の特徴は、中心国を巡る諸国間の国際決済制度を一つの有機的メカニズムと把握し、それがいかに生成し発展しているかという進化論的な視点にもとづいていることにある。さらに、教授は多国籍企業の活動にも目を注がれ、貿易と投資の融合化、多国籍企業の資金調達・決済方法、円の国際化について分析し、一貫して今日の世界経済の構造変化を解明されている。このような教授の研究業績は、学界に論争を巻き起こし多くの研究者を刺激してきている。

教授は、国際経済学会では常任理事を務められ、日本金融学会、経済理論学会、九州経済学会、Association of East Asian Economy等での学会活動で学問研究の発展に寄与されている。教授はまた、多数の国際共同研究の代表を務め多くの研究成果を上げられているとともに、海外招聘による研究のため米国へ出張し、さらに国際会議のコーディネーター、ゲストスピーカー、コメンター等を引き受けられ、学界および九州大学と経済学部の国際的学术交流にご尽力されている。学内行政においても評議員その他の要職を歴任されるとともに、教育現場では多数の学部および大学院の卒業生を社会へ送り出し、九州大学および経済学部の発展に大きく貢献されている。

教授は、一時期重い病魔に襲われたが、その後見事に健康を回復され、還暦を迎えられた今ますますお元気で、学問および教育に対する情熱を燃やしておられる。ここに、教授と親しい学界でご活躍されている5人の研究者の方からと経済学部の同僚の寄稿を得て、還暦記念論文集を献呈できることは、まことに慶ばしい限りである。教授の一層のご健康を祈念するとともに、一層のご活躍を期待する次第である。

2000年2月

九州大学経済学会長

近 昭 夫